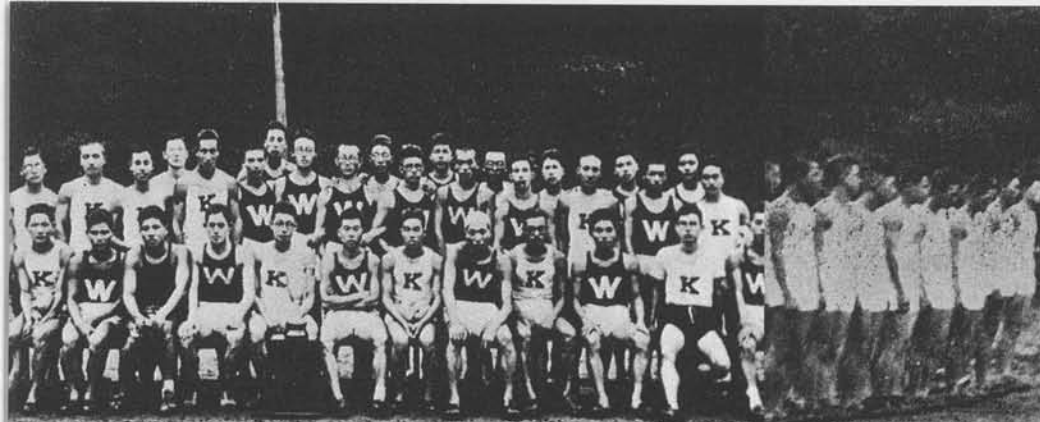


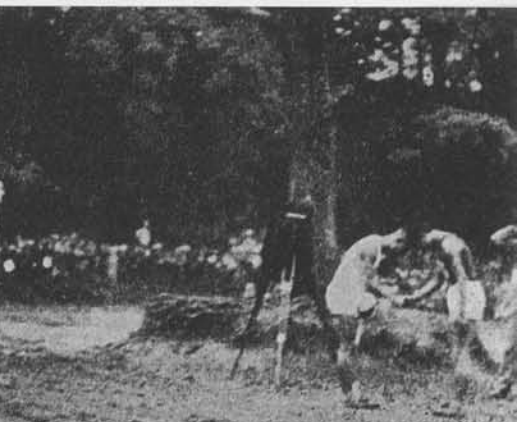
競走部



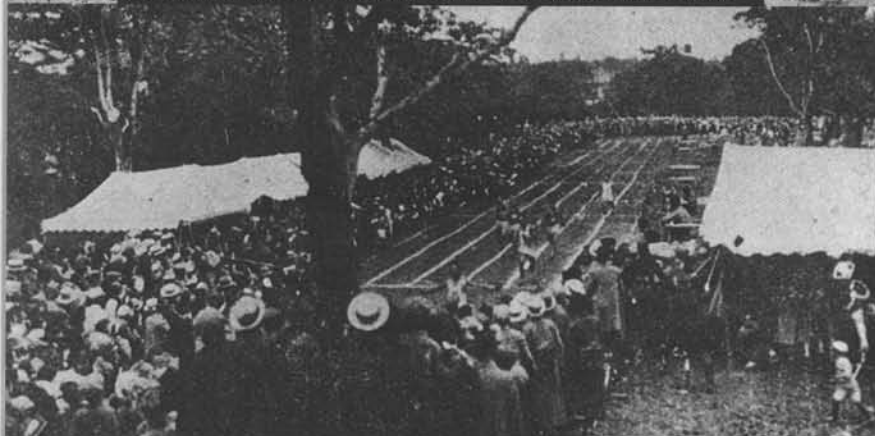
1991 (平成 3 年)・6・1 国立競技場で行われた第60回日本1000メートルリレー。39秒95の塾新記録で優勝。(川村佳正、油井卓也、安川智、鹿又理)



1923(大正12年)・7・15 早稲田高等学院のトラックで行われた第1回早慶対抗陸上競技会の両校出場メンバー。結果は29・1/6-27・5/6で慶應の初勝利であった。



1923(大正12年)・7・15 第1回早慶対抗陸上競技会入場式。左側慶應主将、芝川亀太郎、右側早稲田主将、内田庄作。



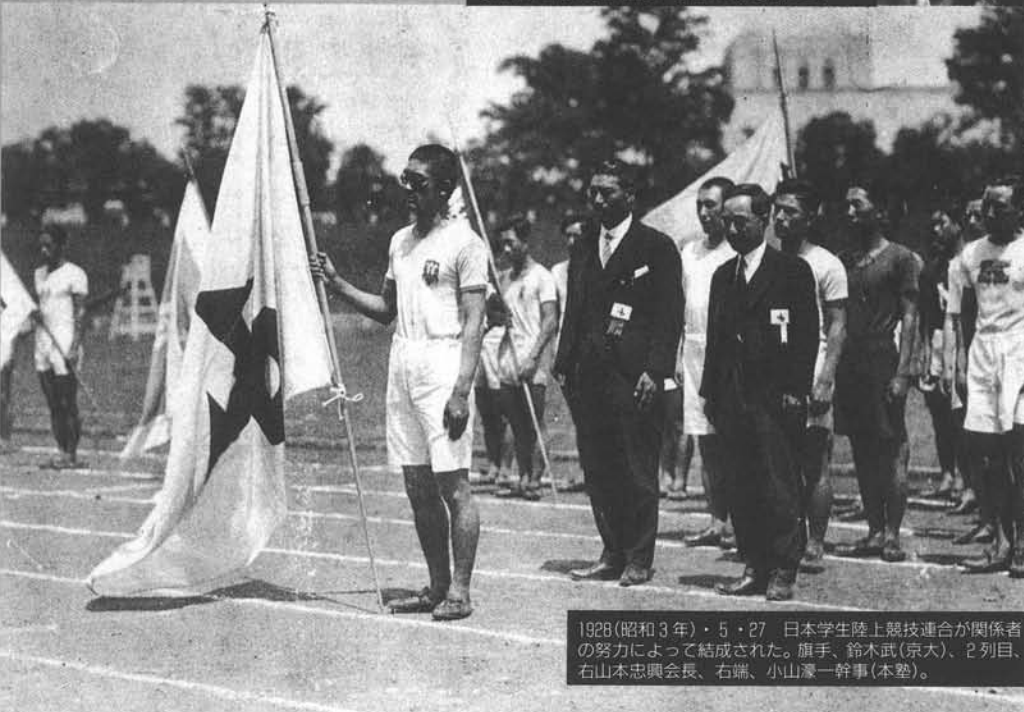
1924(大正13年)・6・8 早稲田高等学院のトラックで行われた第2回早慶戦の400メートル。1位浅野均一(慶應・52秒4) 2位飯尾登志男(慶應) 3位朝比奈信作(早稲田)であった。



第10回ロサンゼルス五輪。マラソンに出場した津田晴一郎は、2時間35分42秒で5位入賞。競技場を出る津田(左側)と金(右側、6位入賞)の両選手。



1927(昭和2年)・5・29 神宮外苑競技場で行われた第5回早慶戦走高跳で平岡進(現姓・中西)は1メートル89の日本新記録で優勝。2位嶋田幹雄(早稲田1メートル86) 3位島三郎(早稲田1メートル83)。



1928(昭和3年)・5・27 日本学生陸上競技連合が関係者の努力によって結成された。旗手、鈴木武(京大)、2列目、右山本忠興会長、右端、小山澤一幹事(本塾)。



1932(昭和7年)・1・10 箱根往復大学駅伝10区、1位日大と6分29秒差でタスキを受け取った最終走者北本は、六郷で早稲田を、芝増上寺で日大を抜いて宿願の初優勝。



第10回ロサンゼルス五輪。5000メートル決勝における竹中正一郎の力走(後ろから3人目)。成績は予選2組7着、決勝では11位だった。また、10000メートル決勝では9位。



1937(昭和12年)・9・26 甲子園競技場での第10回日本100。大江季雄は棒高跳で4メートル35の日本新記録を樹立し、優勝。大江はこの種目で第6回大会から5連勝であった。



1936(昭和11年)・8・5 第11回ベルリン五輪の棒高跳。5時間余の熱戦が展開されたが、優勝はメドゥス。2、3位は決定戦を行わず、西田修平(早稲田)、大江季雄(本塾)両選手で分けた。



銀、銅のメダルを半分に割り張り合わせた「友情のメダル」。



メインスタジアムに上る2本の日章旗。



1940(昭和15年) 湯浅徹平、早慶戦走幅跳に塾新記録で3連覇。7メートル41の塾新記録で100メートルとともに16回大会から3連覇。その他、110メートルH、800メートルリレーでも優勝。



1946(昭和21年)・9・15 ナイルキニック・スタジアム(現国立競技場)で戦後復活第1回の早慶戦が開催された。1500メートルは岡博治(慶應)が優勝。2位高島陽(慶應)3位望月尚夫(早稲田)。対抗戦は38-19で慶應の勝利。

1886 第1回陸上運動会、三田山上で開催。
1892 体育会創設、徒歩部(3年で廃絶)。
1910 体育会直轄徒歩部創立。全国学生競走大会、井出伊古5哩競走28'30"で優勝。
1913 第1回全国陸上、井出、800メートル、1500メートル、5000メートルと3種目優勝。日本最初の公認記録。
1914 津村、全国陸上400メートル優勝、57'7"日本新記録。
1915 津村、上海極東大会1哩リレー優勝。
1915~1916 全国陸上、走幅跳甲斐日本新で、220Y低障害渡辺、走高跳三宅も優勝。
1917・5 体育会に競争部(後に競走部)加入、初代部長小泉信三。/6・20 第1回塾内試走会開催。
1918・10 慶應競技会13種目を開催。全国陸上で100メートル松田、200メートル低障害渡辺が日本記録。
1919 第1回専門学校連合競技会(現在の関

東10)で早大について2位。/9・7 我が国最初の対校競技、本塾対神戸商戦を鳴尾で挙行。広兼篤郎の200メートル低障害27"8の日本新記録など好記録を生み、60-45で初勝利。
1920・2・14~15 第1回東京箱根往復大学駅伝競走4位。五輪予選で益田が砲丸、槍に優勝しアントワープ大会参加。全国陸上棒高跳で芝川、関東10ハンマー投で木下が日本記録で優勝。この年400Rでも日本新を出す。
1921 部長加藤元一。上海極東大会に別府、室井、益田出場。この年の前後芝川が棒高跳で、益田は走幅跳、槍投、10種で次々と日本記録を更新。
1922 全国陸上200メートル低障害別府優勝。
1923・7・15 第1回早慶対抗競技会が豪雨の中、1周280メートルの早高トラックで行

われ初勝利。大阪の極東大会浅野、三浦、別府、黒田出場。
1925 マニラ極東大会小山、堤出場。早慶戦100メートル中根日本タイ。三木は200メートル低障害で3回、平岡は走高跳の日本新を3年間で4回更新。
1926 初代監督浅野均一。岡田800メートル、平岡(中西)は、100メートル、200メートルでも日本記録を樹立。小山が全日本10種競技で優勝。
1927 三木高障害、小山槍投で日本記録。マニラ極東大会の1500メートルで津田優勝。
1928 津田、三木がアムステルダム五輪に出場。津田は6位に入賞。第1回日本100開催2位。予科対三高戦が行われる。
1929 津田、長谷川、斉藤が次々と日本記録樹立。北本も5000メートルで4年連続日本新。
1930 日本100で選手在学証明書提出が1



1946(昭和21年) 戦後第1回の関東I。1943年から中断されていた第25回関東Iはナイルキニック・スタジアムで再開。石原伊平は400メートルに54秒5のタイムで優勝。小林敦も6位入賞。総合順位も3位となった。



1951(昭和26年)・7・7〜8 奈良の橿原競技場で行われた第20回日本Iの100メートルで優勝した大橋敏宏。また、200メートルでも優勝し、2種目を2年連続で制覇。翌年も100メートルで優勝するなど、当時の短距離界No.1だった。



1952(昭和27年) 第15回ヘルシンキ五輪に本部役員としてマラソン選手とともに先発する浅野均一(競走部長)とマラソンコーチの竹中正一郎(競走部コーチ)。写真左からNHKの飯田アナ、浅野、内川、西田、山田、竹中。



1950(昭和25年) ヘルシンキ五輪に備え世界のアメリカチームとの競技会が行われた。アメリカ主将ボットフィールド(当時800メートルの世界記録保持者)と日本主将浅野均一。左は1か月余り日本各地を転戦した本塾の大橋敏宏(短距離・右)と西村昭(跳躍・左)。

日遅れたため出場を拒否され、浅野監督は黒田次主将以下部員を引き連れ満州に遠征。
1931 円盤投で板橋が3度日本記録を更新したほか、北本、阿武、竹中、西、鈴木、星野、黒田らにOBも加えて勢大活躍。
1932 箱根駅伝で前年の2位から念願の優勝を成し遂げる(高橋、今井哲、渡辺、島村、星野、北村、菅沼、竹中、久武、北本)。ロサンゼルス五輪に平沼団長、役員小山、三浦と選手北本、竹中、阿武、小野、津田が参加。津田マラソンで5位。5000メートル決勝の竹中も11位と健闘。この年今井哲夫が3000メートル障害で、北本は1500メートルで日本記録を更新。
1933 監督小山澤一。対東京文理大戦開始。大江が南米遠征。菅沼800メートルで日本記録。
1934・5・23 日吉競技場新設。日米対抗今井、鈴木、大江出場。大江は棒高跳優勝。早慶対京関戦を日吉で開始。

1935 監督益田弘。ブタペストの国際大学大会で大江2位。全日本では今井が3000メートル障害を日本新で、400メートルR(小池、井後、金子、鈴木)も優勝。以後1938年まで4連続1位。
1936 大江は対京関戦で4メートル34の日本新記録樹立。ベルリン五輪は平沼団長、役員浅野、選手鈴木、今井慶、今井哲、大江の4名。西田修平と大江はともに米国の強豪3選手を相手にし、2位3位を分ける。
1937 大江は米国の室内競技会に招待され、ベルリンの勝者メドウズを破り優勝。帰国後甲子園の日本Iで4メートル35の日本記録を樹立。
1938〜1942 金田、本儀、湯浅、今井、岩崎、金山、本所、井後などが全日本、日本Iで優勝、400メートルRで連戦連勝するなど、各種大会で活躍したが、戦争状態悪化とともに大会も中止、また数も少なくなった。

1940 監督中根毅就任。
1941 監督竹中正一郎就任。中大戦勝利。
1942 京大戦勝利。
1943 伝統の早慶戦も最後を日吉で行う。金山、松岡、荘田、岡、高島、浦上、郷谷、由本らが得点を重ねたが3点差で破れる。
1944〜1945 部活動休止。
1946・9・15 戦後復活の早慶戦で岡、石原、斉藤、秋山、小林、川崎、相原の活躍で20年ぶりに勝利。関東Iも3位となる。
1947 復活箱根駅伝の復路で10チーム中のベストタイムを出し、総合3位。早慶戦金成の槍投で逆転2連勝。日本Iも復活し、岡1500メートル優勝。
1949 日吉競技場米軍より返還、改修。
1950 部長浅野均一、監督小山澤一。田園調布に合宿所購入。初めて女子部員1名入部。
1951 大橋はインドの第1回アジア大会で、100メートル2位。日本Iでも100メー



1953(昭和28年)・9・2 第3回ドルトムント・ユニバーシアードアカデミーリレーに出場し3位となった小沢友二。小沢は同年7月4～5日西京極で行われた日本ICで1年生ながら51秒9で優勝し、ユニバーシアード代表に選ばれた。



1958(昭和33年) 走幅跳、110メートルハードルに活躍した松山秀雄。改装なった国立競技場で行われた第27回日本ICの走幅跳に7メートル38で優勝した。



ル、200メートルに優勝。走幅跳、三段跳で西村が1位となり多種目優勝旗を初めて獲得。松野、津田、金盛、斉藤、広池、長野らの活躍もあり総合4位。
1952 監督益田弘。ヘルシンキ五輪役員浅野、竹中、共同通信特派員菅沼が参加。日本IC 1600メートル優勝。対同志社戦始まる。
1953 早慶戦 32-25 で5度目の勝利。ドルトムント国際大学スポーツ大会小沢、西村参加。日本IC 1600メートルR 2連勝。
1954 マニラの第2回アジア大会に浅野団長のほか選手高谷、松本参加。
1955 早慶戦で6種目に勝ち、6回目の勝利。
1956 メルボルン五輪に役員浅野。NHK特派員松本が参加。
1957 監督小山濠一。パリ国際大学スポーツ大会に高山出場。女子部員3名となる。
1959 箱根駅伝9年ぶりの出場、16位。

1960 早慶戦 34.5-22.5 で大勝。全日本で室100メートル優勝。
1961 ソフィアのユニバーシアード大会に役員渡辺と室が参加。室は200メートル決勝21"7で6位。
1962 監督竹中正一郎。
1964 東京五輪。室リレーメンバー。
1965 ブタペスト・ユニバーシアード大会の棒高跳で喜田4メートル80の日本タイ記録で5位。
1967 監督湯浅徹平。日吉合宿所の完成まで芝の福沢宅に移転。
1968 第1回6大学対校競技会、3位。
1969 関東IC得点0点で初めて2部転落。部創立50周年記念祝賀会を日吉で盛大に挙行。
1970 部長三浦新市。関東ICの2部で優勝。1部に返り咲く。早慶戦で5種目に1位を収め10年ぶりに勝利。/11 日吉合宿所

に移転。
1971 部長阪埜光男。箱根駅伝15位。
1972 部長地井優。
1973 監督室洋二郎。関東IC 800メートル吉田優勝。
1974 50回記念箱根駅伝招待、19位。
1975 早慶戦5年ぶりに勝利。6大学対校で400R、1600R、1500メートルで吉田3'54"7と塾記録を更新。日本IC 400R(田崎、谷口、武田、野本)で33年ぶりに優勝。
1976 田崎全日本100メートル10"55で1位。北京の日中対抗にも参加。
1981 部長松井康夫(池井部長留学のため)
1982 監督西田紘平。
1983 部長池井優。
1984 60回記念箱根駅伝招待、20位。
1985 鈴木太平洋5ヶ国、キャンベラのワールドカップなどに出場。神戸のユニバーシアード大会では1600Rのメンバーで日本記



1958(昭和33年)・7・5 日本100メートル決勝。左端、室洋二郎(1位・11秒2)は戦後唯一の五輪代表。日本100メートルで'58'60'61と3回制覇。右隣は3位の古沢悦治、右端は4位の高山恕。ともに100で活躍した選手達である。

録樹立。

1986 早慶戦で11年ぶりに勝利。全日本大学女子駅伝に関東代表で出場、29チーム中22位。

1988 関東100部転落。

1989 関東100部復帰。

1990 関東100の女子7種で斉藤奈保美3位。ブルガリア世界ジュニア陸上200メートル鹿又出場。佐藤、関東100万メートル競歩で3位。

1991 日本100、400R(川村、油井、安川、鹿又)で16年ぶりに優勝。監督松田雅之。

1991(平成3年) 第60回100メートルハードル予選で14秒09の塾新をマークした渡部充。決勝は14秒17で2着。渡部はこの年、塾記録を14秒04まで伸ばし全日本学生選手権でも優勝するなど大活躍。

